

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	2	名称	福祉と健康づくりで明るいまち			
施策	番号	2	名称	医療サービスと救急医療体制の充実			
主担当部	健康部		主担当課	健康増進課		部長名	福角幸生
関係部	総合政策部		関係課	地域創造課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民が安心して暮すため、一次医療としての休日夜間応急診療所の整備・充実を図るとともに、二次医療としての輪番体制を維持することにより、良好な医療サービス、救急医療体制を提供することを目的としている。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	休日夜間応急診療所については、市民はもとより、中南和地区における小児救急医療の拠点的位置づけになっています。また、救急医療の危機が叫ばれる中、市民に医療の現状を伝え、かかりつけ医の必要性や適正な受診への啓発に努める事により、市民が求める救急時にスムーズな医療を受けることが、出来る体制作りにも力を入れて努めているところです。	医師の偏在等により、医療体制が厳しい状況にあり、奈良県全体で救急医療体制の整備に取り組んでいる中、市においても関係団体のもと理解と協力を求め広域的な連携を視野に入れ、救急医療体制に取組む必要があります。
これまでの成果	本市の救急医療体制は、長年にわたり地区医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力のもとに進めており、県下でもっとも充実した体制になっています。休日夜間応急診療所は一次救急医として、中南和地区の拠点的作用を担っている状況です。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	24年度	25年度		26年度	27年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標	目標	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	休日夜間応急診療所 (受診実績)	13,131	13,200	12,744	13,400	13,600	14,000	
	施策指標② (成果指標)	休日夜間応急診療所 (小児受診実績(内数))	8,223	9,100	7,961	9,200	9,300	9,500	
	施策指標③ (成果指標)	二次救急輪番病院 患者受入数	6,246	5,000	6,141	5,000	5,000	5,000	
	施策指標④ (成果指標)								
	施策指標⑤ (成果指標)								
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算			
	歳出 (直接事業費)(a)		316,558	295,785	293,867	304,180			
	歳入 (b)	受益者負担額	140,460	155,130	128,650	155,217			
		国や県からの補助金その他	41,011	38,650	39,415	40,351			
	(a) - (b) = 一般財源		135,087	102,005	125,802	108,612			
	正職員	従事者数 (単位:人)	4.20	4.35	4.35	3.85			
		人件費(c)	26,053	26,848	26,848	23,762			
トータルコスト (a) + (c)		342,611	322,633	320,715	327,942				

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	休日夜間応急診療所の位置づけは、奈良県下はもとより、中南和地区においては無くてはならない、拠点的作用を担っていると考えます。また、軽症患者が二次輪番病院を直接受診することなく休日夜間応急診療所を受診するように働きかけることにより、二次救急輪番病院の負担軽減に繋がるものであり、医療の適正な流れに向けて効果があると考えます。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	市民が安心して生活するために、急病やケガなどの患者に対して、病院等の診療時間外に医療を提供する体制をつくることは重要であり、貢献度は高いと考えます。				

6. 施策の課題

この施策の課題	休日夜間応急診療所は、小児救急医療の中南和地区における拠点的位置づけをされている状況であり、今後の体制についても近隣市町村を中心に県下全体で検討をし、今後はより重点的に市民への啓発に取組み、意識改革を図る必要があると考えます。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	橿原市は、医療機関数も充実していると考えますが、体制としてはより一層、適正医療のあり方を市民とともに考え、啓発に力をいれる必要があります。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	一次救急医療と救急連携事業については、現状の啓発や体制等を維持していく必要があると考えます。また、二次救急医療体制については、市民の理解をより一層求め、適正な医療に対する認識や貴重な医療財源の大切さを一人ひとりに知ってもらえるよう今以上に取組んでいくことに努めます。これにより、スムーズな医療体制となるよう見直しを加えながら継続していく方向です。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)				施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH25決算額	貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	地域創造課	かしはら健康サポーター養成講座を1年に8回開催する。既に健康増進や地域福祉の推進等で活動している市民が受講者となり、橿原地区医師会と奈良県立医科大学の医療・医学の専門家が講師となる。毎回60分の講義の他、30分の質疑応答の時間を設け双方向性の講座とする。講座修了後の活躍について、アンケートによる追跡調査を行い講座がその後の活動に効果的であったか否かを確認する。また受講者が活躍していただける場を積極的に提案する。	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	D
	健康医学市民講座実施事業 (ソフト(任意))		811 (千円)			
2	健康増進課	診療形態 <休日>内 科:午前10時から午後9時30分 小児科:午前10時から午後9時30分 歯 科:午前10時から午後9時 <夜間>内 科:午後9時30分から午前0時 小児科:午後9時30分から午前0時 <深夜>小児科:午前0時から午前6時	2 現状のまま継続	a	見直しながらかつ続ける	A
	一次救急医療事業 (ソフト(任意))		224,365 (千円)			
3	健康増進課	「救急医療協議会」については、関係機関(県立医大附属病院、橿原地区医師会、橿原警察署、中和広域消防組合)が集まって開催し、救急医療体制の充実と円滑化について討議する。 また、市民に対して広報やチラシを通じて、救急医療の適正化を訴えている。各市町村だけで対応出来ない産婦人科一次輪番体制を県主導のもと、各市町村も参画し、負担金を供出している。	1 拡大する	b	拡大する	C
	救急連携事業 (ソフト(任意))		3,637 (千円)			
4	健康増進課	市内3病院及び市外3病院で、外科及び内科について、輪番制の二次救急を実施している 平日18時～翌8時 土曜日13時～翌8時 休日8時～翌8時(8月15日・12月29日・1月4日含む)	2 現状のまま継続	b	見直しながらかつ続ける	B
	二次救急医療事業 (ソフト(任意))		65,054 (千円)			

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月5日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	健康医学市民講座実施事業									
	担当部名	総合政策部	担当課名	地域創造課	課長名	山風呂 佳史					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実							
	予算事業名	地域活性化推進事業費									
	事業の開始年度	平成	23	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象	市民									
	事業の目的	健康増進や地域福祉の推進等で活躍されている市民の方々が、橿原地区医師会や奈良県立医科大学の医療・医学の専門家から高度で専門的な知識や情報を習得することにより、より効果的・効率的に活躍していただき、医療と地域の連携による人が集まる街づくりや地域の活性化を図ることを目的とする。			事業の内容説明						
	市 の 関 与 の 必 要 性 を 評 価 し て く だ さ い	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	橿原地区医師会、奈良県立医科大学が持つ高度な医学や医療知識を多くの市民が学ぶことによって市民生活の質の向上や地域の活性化につながることから、市が積極的に関与しなければならない。							
やめた場合の影響は		2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	橿原地区医師会、奈良県立医科大学及び橿原市が協力連携した健康維持・増進の普及啓発事業であり、取りやめた場合には医療、介護等の社会保障費の増加が予想される。								
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計目標)年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	受講者人数	人		45	50	48	50	50	50	
	活動指標①	講座開催回数	回		8	8	8	8	8	8	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			1,107	676	811	983			
		歳入(b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			1,107	676	811	983			
正職員		従事者数(単位:人)			1.00	1.15	1.15	0.95			
		人件費(c)			6,203	7,098	7,098	5,863			
トータルコスト(a)+(c)			7,310	7,774	7,909	6,846					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要		
		説明	アンケートの結果等から受講者には大変好評であり、今後、地域活動の場において講座で学んだ知識を広く普及・啓発していただき、健康づくりに貢献していただくことが大いに期待できる。						
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	主要施策に付随した関連事業であり、県立医科大学と榎原市（医学と行政）が協働することにより、福祉と健康づくりで明るいまちづくりに貢献している。						
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要		
		説明	必要最小限度で予算化しているため低減見込みは少ない。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		すでに地域活動などを行い、地域に貢献している高い志を持った方々に年8回の講座を受講していただいただく。講座を修了された方々は、後に健康サポーターとして、自らの健康維持・増進だけでなく、市の事業や地域活動等において講座で得た知識を広めていただき、地域での軸として活躍していただく。これにより、福祉と健康づくりで明るいまちづくり・医療と地域の連携による人が集まるまちづくりが期待できる。						
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		C
説明		基本的には医大等と協議を重ねて事業を遂行していく。受講者自身の健康に対する意識を高めるだけでなく、地域の軸として健康づくりに対する普及・啓発活動に期待する。今後は他課の事業等を含め、講座修了者の具体的な活動の場の提案を行い受講後の効果の検証を行う。							

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	一次救急医療事業							
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	森本 昌枝			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち					
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実					
	予算事業名	休日夜間応急診療所運営費							
	事業の開始年度	昭和	49	年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
	対象	一次救急医療患者			事業の 内容説明	診療形態 〈休日〉内 科:午前10時から午後9時30分 小児科:午前10時から午後9時30分 歯 科:午前10時から午後9時 〈夜間〉内 科:午後9時30分から午前0時 小児科:午後9時30分から午前0時 〈深夜〉小児科:午前0時から午前6時			
	事業の 目的	急病や怪我など軽い症状の患者に対し、民間病院等の診療時間外にも適切な医療を提供することで、市民が安心して生活ができるようにする。							
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
			説明	一次救急医療は市町村が担う事業ではあるが、運営を医師会などに委託することも可能かと考える。現行は医師会の形態上可能ではない。					
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明	休日・夜間深夜の時間外においてかかりつけ医院が開業されていない時間帯には急病などに対応できるところはなく、市民の生命にかかわる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
	成果指標	休日診療所受診者数(内科・歯科)		13,131	13,200	12,744	13,400	13,600	14,000
	活動指標 ①	休日診療所受診者数(内科・歯科)		13,131	13,200	12,744	13,400	13,600	14,000
	活動指標 ②	休日診療所受診者数 うち小児受診者数		8,223	9,100	7,961	9,200	9,300	9,500
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		224,180	223,143	224,365	228,822		
		歳入 (b)	受益者負担額	140,460	155,130	128,650	155,217		
			国県補助金等その他	30,661	31,448	32,294	33,825		
		(a) - (b) = 一般財源		53,059	36,565	63,421	39,780		
		正職員	従事者数(単位:人)	1.50	1.50	1.50	1.40		
			人件費(c)	9,305	9,258	9,258	8,641		
		トータルコスト(a)+(c)		233,485	232,401	233,623	237,463		
	単位当 りコスト	計算式等 ()/()							
	備考 (これまでの 実績等)								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成19年度から小児深夜診療を毎日実施するようになり、榎原地区だけでなく、中南和地区の重要な役割も担っている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	軽易な風邪や発熱等の病気であれば、医療機関が休診・時間外の時でも、休日夜間応急診療所に対応できるので、非常に安心感がある。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	2 概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	3 効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	薬剤の在庫管理を徹底するなど、経費の削減に努めているが、昨今の全国的な医師不足を受け、医師等の人件費が高騰する可能性がある。また、深夜診療はその経費に見合うだけの診療料を得ることは不可能である。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		小児科については、深夜診療を毎日にしたため、かなり充実していると考え、内科の診療体制の整備が今後の検討課題である。 深夜診療の時間帯にもかかわらず、相当数の軽症患者が二次医療機関にかかっている現状であるので、一層市民周知を図り、休日夜間応急診療所に来ていただくことと、市民一人ひとりがかかりつけ医を持ち、適切な時間帯での受診を行っていただくことで、救急医療体制の適正化を図る。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	病院等の診療時間外に医療を提供することで、市民が安心して生活できるよう続けて実施する。					

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	救急連携事業									
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	森本 昌枝					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実							
	予算事業名	救急医療対策事業費									
	事業の開始年度	平成	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	年度				
	対象	市民									
	事業の 目的	檀原市の一次・二次救急医療について、関係機関が抱える問題を解消し、医療体制の円滑化を図る。		事業の 内容説明	「救急医療協議会」については、関係機関(県立医大附属病院、檀原地区医師会、檀原警察署、中和広域消防組合)が集まって開催し、救急医療体制の充実と円滑化について討議する。 また、市民に対して広報やチラシを通じて、救急医療の適正化を訴えている。 各市町村だけで対応出来ない産婦人科一次輪番体制を県主導のもと、各市町村も参画し、負担金を供出している。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	救急医療は市の責務であり、その関係機関の連絡調整についても市が行なうべき事業である。							
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	やめた 場合の 影響は	1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明	機関の連携が取れず、救急医療体制が混乱し、市民生活に重大な支障が生じる。								
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	二次救急輪番病院 受診者数			6,246	5,000	6,141	5,000	5,000	5,000	
	活動指標 ①	二次救急輪番病院 受診者数			6,246	5,000	6,141	5,000	5,000	5,000	
	活動指標 ②	二次救急病院受診者の内、帰宅者以外の割合 (%)			16.0	20.0	16.5	20.0	20.0	20.0	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			3,910	4,735	3,637	5,147			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他								
		(a) - (b) = 一般財源			3,910	4,735	3,637	5,147			
正職員		従事者数(単位:人)			0.85	0.85	0.85	0.80			
		人件費(c)			5,273	5,246	5,246	4,938			
トータルコスト(a)+(c)			9,183	9,981	8,883	10,085					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	帰宅者以外の重症者の割合が増加していることから見ても、二次診療として適正な診療が行なわれていきつつあることがわかる							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	救急(消防)から病院に至るまでの救急医療体制をトータルに検証することは、市民の安全・安心を確保する上で重要と考える。							
評価	効率性評価		2	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要			
	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			説明 県の産婦人科一次救急体制を維持していくために、現状は必要最小限の経費で運営している。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		現在本市の救急医療で問題となっているものには、医師不足等市内の関係機関の努力だけでは解決できない問題もある。そのため県とも協力するなど広域的な対応が必要となる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください		1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する		課内優先度	B
説明		救急医療の連携がスムーズに行なえるようにし、市民に対して広報やチラシ以外の手段を検討し、救急医療の適正化を継続して訴える。								

事務事業評価表(平成25年度実施事業対象)

(作成日:平成26年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	二次救急医療事業									
	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	森本 昌枝					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	2	福祉と健康づくりで明るいまち							
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実							
	予算事業名	救急医療対策事業費									
	事業の開始年度	平成	5	年度	事業の終了予定年度	平成	年度				
	対象	二次救急医療患者									
	事業の 目的	急病や怪我などで手術や入院が必要な患者に対し、民間病院の輪番による受け入れ体制を整備し、市民が安心して生活できるようにする。			事業の 内容説明	市内3病院及び市外3病院で、外科及び内科について、輪番制の二次救急を実施している 平日18時～翌8時 土曜日13時～翌8時 休日8時～翌8時(8月15日・12月29日・1月4日含む)					
	市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が直接的・包括的に関与すべき事業 2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)							
			説明	市民の生命を守るため、二次救急医療は欠かすことができないが、休日夜間応急診療所では施設・設備の面から受け入れできない。そのため、民間の医療機関に委託して実施することが適当である。							
やめた 場合の 影響は		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	手術や入院が必要な患者を受け入れる病院がなくなり、遠方の病院まで救急搬送するため、患者の生命にかかわる事態が生じる。										
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			24年度	25年度		26年度	27年度	29(総計 目標) 年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	二次救急輪番病院患者受入数			6,246	5,000	6,141	5,000	5,000	5,000	
	活動指標 ①	二次救急輪番病院患者受入数			6,246	5,000	6,141	5,000	5,000	5,000	
	活動指標 ②										
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			87,361	67,231	65,054	69,228			
		歳入 (b)	受益者負担額								
			国県補助金等その他			10,350	7,202	7,121	6,526		
		(a) - (b) = 一般財源			77,011	60,029	57,933	62,702			
正職員		従事者数(単位:人)			0.85	0.85	0.85	0.70			
		人件費(c)			5,273	5,246	5,246	4,320			
トータルコスト(a)+(c)			92,634	72,477	70,300	73,548					
単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	二次救急患者数はほぼ横ばいである。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	身近に救急病院があることで、市民が安心して生活できるので、本事業の貢献度はかなり高い							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	現時点で効率性が非常に高く、これ以上の改善は見込めない	概ね高い効率性が発揮されているが、さらに向上できる余地はある	効率性がやや低く、見直しによる改善が期待される	4 現時点では効率性が低く、大幅な改善が必要				
		説明	昨今の医師不足を受け、各二次救急病院においても医師確保が困難になっており、人件費が高騰し、本事業を維持するため、各病院から委託料の増額を求められる可能性がある。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		軽症患者については、一次医療機関で対応するように広報等で周知を図り、二次救急病院が重症患者に専念できる状態にする必要がある。 また、市外の医療機関にも協力を得ることで、輪番体制の維持に努める。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	B
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	病院等の診療時間外に医療を提供することで、市民が安心して生活できるよう現状維持とする。					